

平成30・31年度 「家庭総合」 シラバス (4単位を2学年にわたって履修する…各学年で2単位ずつ履修)

「家庭総合」	単位数	2 単 位
	学科・学年・学級	2学年 みらい福祉科、普通科 (クリエイティブアーツコース・普通コース)

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者とのかかわりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
使用教科書・副教材等	「家庭総合」－明日の生活を築く－ 開隆堂

2 学習計画及び学習のねらい

月	単元名	学 習 項 目 「いつ何を学ぶのか」	学習のねらい 「何ができるようになるのか、どのような力が身に付くことをめざすのか」	評価方法
4		「家庭総合」の学習について	・家庭総合の学習の意義や内容、学習や評価方法を理解する。	
5・10 6・11 7・12 8・9/ 1・2	第1章 食べる	1. 人間と食べ物 2. 食品と栄養 3. 食品の衛生と安全 4. 食事を調える	・栄養を満たす食事のために、基礎的・基本的知識を身につける。 ・日常の献立の手順を理解し、食品群別摂取量のめやすを満たす1日分の献立について考える。 ・調理による色、味、テクスチャーなどの変化を食品成分の変化とかわらせて科学的に理解する。 ・それぞれの調理法の特徴について、調理器具の特徴や取り扱い方などとも関連し理解する。 ・環境保全につながる様々な取り組み、内容を理解し、望ましい食生活のり方を考える。 ・各ライフステージにおける食生活の課題を理解する。 ・日常用いられる食品から栄養的な特質等を理解する。 ・食品の腐敗、食中毒、食品添加物について理解する。 ・食品情報を正しく理解できる消費者になる大切さを考える。	・授業態度 ・ワークシート ・プリント学習 ・ノート提出 ・定期考査
5・10 6・11 7・12 8・9/ 1・2	第2章 着る	1. 人間と被服 2. 被服の選択 3. 被服の着用 4. 被服の管理 5. 被服をつくる 6. これからの衣生活	・時と場合、目的に適した被服材料や被服の構成及び被服の機能をいかした適切な着装を考える。 ・着装に関心を持ち、自分の個性をみつめて自分らしい着装について考える。 ・組成表示や取扱表示を確認し、着心地や管理を考えた被服の選択ができる力を身につける。 ・被服材料の性能改善と着心地などについて考える。 ・どのようにすれば健康で快適な衣生活を送ることができるのか考える。 ・洗濯や手入れなど、自ら衣服を管理する知識と技術を身につける。 ・和服と洋服の構成上の特徴や被服材料、着用の特徴を理解し、衣服製作の基本を知り、日常生活で必要な基本的な縫い方の技術を習得する。 ・資源の有効利用の観点から循環型の被服計画の必要性について理解する。	・授業態度 ・ワークシート ・プリント学習 ・ノート提出 ・被服製作 ・定期考査
3	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動		・ホームプロジェクトと家庭クラブについて理解し、生活の課題解決をめざし、ホームプロジェクトの実践を行う。	

3 評価の観点、内容および評価

評価の観点	評価の内容と方法	
関心・意欲・態度	・衣食住などについて関心をもったか。	・ワークシート、レポートへの取り組み
思考・判断・表現	・衣食住などについて、自らが課題を見いだしているか。	・定期考査 ・ワークシート、レポートの考察内容
技能	・衣食住などに関する技術を総合的に身に付けているか。	・ワークシート、レポート ・被服実習 ・調理実習
知識・理解	・衣食住などについて理解したか。	・定期考査 ・ワークシート ・レポート

4 各学期と年間の評価方法

●学期ごとの評価は、定期考査を30%、その他の評価を70%として合わせて評価します。
●年間の評価は前・後期の成績を総合的に評価して算出します。

「家庭総合」	単位数	2 単 位
	学科・学年・学級	3 学年 普通科 (介護福祉コース・クリエイティブアーツコース・普通コース)
学習の到達目標	人の一生と家族・家庭，子どもや高齢者とのかかわりと福祉，消費生活，衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得させ，家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに，生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	
使用教科書・副教材等	「家庭総合」－明日の生活を築く－ 開隆堂	

2 学習計画及び学習のねらい

月	単元名	学 習 項 目 「いつ何を学ぶのか」	学習のねらい 「何ができるようになるのか，どのような力が身に付くことをめざすのか」	評価方法
4		3 年次「家庭総合」の学習について	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭総合の学習の意義や内容，学習や評価方法を理解する。 ・生涯発達の視点で各ライフステージの特徴と課題について理解する。 	
5・10 6・11	第1部 人とかかわって生きる 第1章 自分を見つめる	1. 人の一生と発達課題 2. 青年期を生きる	<ul style="list-style-type: none"> ・長い人生の中の「今」という文脈で，青年期にある自分を見つめなおすことを通じて，これからの人生をどう生きていくかを改めて考える。 ・自己理解，心身の自立や生活者としての自立などを理解し，青年期の生き方について考える。 ・「青年期」がどのような時期かを知るとともに，これからの生き方や方向性について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・ワークシート ・プリント学習 ・ノート提出
7・12 8・9/ 1・2	第2章 家族・家庭と社会	1. 現代の家族と家庭の機能 2. 現代の家族の特徴 3. 家族・家の法律 4. これからの家族・家庭と社会	<ul style="list-style-type: none"> ・家族が家族個人の発達に果たしている機能と社会に対して果たしている機能について，それぞれの歴史的变化，文化や社会による特徴を理解する。 ・日本の親子関係，夫婦関係の現状をおさえながら，現代家族の特徴について考える。 ・婚姻，夫婦，親子などに関する法律の基礎的知識を理解する。 ・家庭生活を支える社会制度や社会福祉の基本的知識を理解する。 ・これからの家族の多様性が尊重されることや家族一人ひとりの基本的人権が守られることが大切であることを理解し，困難がある場合の対応策などを考える。 ・子どもと実際にかかわり，子どもは生活の中で人とかかわりを通して育つことを理解する。 ・子どもを育てることは社会的意義や両性がかかわることの意義について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査
	第3章 子どもの発達と保育・福祉	1. 子どもの発達と生活 2. 子どもとかかわる 3. 親の役割と子育て支援 4. 子どもの権利と福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発育・発達には，個人差があるが一定の順序と共通性があることを理解し，周囲のおとなの役割，養育態度の関係について考える。 ・近年の子どもを取りまく環境の変化について考える。 ・全ての子どもが健やかに育つための福祉について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート提出 ・定期考査 ・授業態度 ・ワークシート
	第4章 高齢者の生活と福祉	1. 高齢者とかかわり理解する 2. 高齢者の生活と課題 3. 人間の尊厳とケア 4. 高齢社会の福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と話す体験などを通して高齢者について理解する。 ・生涯を見通して高齢期をとらえるとともに，高齢者の心身の変化と特徴や生活について理解する。 ・高齢者の意思や尊重，残存能力を生かす生活支援の在り方について考える。 ・相手のニーズやペースに合わせることなど，コミュニケーションの重要性について考える。 ・高齢化の特徴や住居地域の高齢化の状況について考える。 ・高齢期を豊かに，魅力的に生きるには何が必要か考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント学習
	第5章 共生社会における地域や家族	1. リスクに備える 2. 共生社会に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なリスクに遭遇する可能性があることに気づき，社会福祉の種類と活用を理解する。 ・人と人とのネットワークや社会制度について考える。 ・ノーマライゼーションの理念を土台とした社会をつくることが重要であることを理解する。 	

5・10	第2部 生活を営む	1. 人間と住まい	暮	<ul style="list-style-type: none"> 生活様式や住居の形が、社会制度や文化の変遷に応じて変化してきたことを理解する。 家族の生活に応じた適切な住居の計画や選択ができるように、必要な知識と技能を習得する。 快適かつ健康に過ごすために必要となる機能について理解する。 安全で耐久性のある住居に必要な機能について理解する。 住まいとまちのかかわりを考える。 住環境にかかわる社会的なしくみについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 ワークシート プリント学習 ノート提出 定期考査
6・11	第3章	2. さまざまな住まいとらし方			
7・12	住まう	3. 快適な住まい			
8・9/ 1・2		4. 安全な住まい			
		5. まちづくりと住まい			
5・10	第3部 生活をつくる	1. 消費生活の変化とその課題	暮	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で様々なリスクへの対応や回避についてこれまで学んできたことを活かす。 将来の生活に向かって目標を立て、展望をもって生活することの重要性を理解する。 自らの消費行動によって、環境負荷を低減させ、進んで地球環境保全に貢献できるライフスタイルを実践できるよう考える。 	
6・11	第1章 消費者市民への道	2. 家計のマネジメント			
7・12		3. 消費行動と意思決定			
8・9/ 1・2		4. 消費者の権利と責任			
		5. 持続可能な消費生活			
2	第2章 生涯の生活設計	1. 生活資源を活用した生活設計			
	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	災害時の非常食作り		<ul style="list-style-type: none"> 非常食作りを通して、災害の実態を知り避難生活について考えさせる。非常時に対する危機管理に関心を寄せる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 レポート

3 評価の観点、内容および評価方法

評価の観点	評価の内容と方法
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、について関心をもったか。 生活の充実向上を目指そうとしているか。 学んだことを生活に生かそうとする実践的な態度を身につけたか。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、について、自らが課題を見いだしているか。 課題の解決を目指して思考を深め、適切に判断する力を身に付けているか。 自らの考えを工夫し創造する能力を身につけているか。
技能	<ul style="list-style-type: none"> 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、に関する技術を総合的に身に付けているか。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、について理解したか。 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、に関する知識を総合的に身に付けているか。

4 各学期と年間の評価方法

●学期ごとの評価は、定期考査を30%、その他の評価を70%として合わせて評価します。
●年間の評価は前・後期の成績を総合的に評価して算出します。